

ふじみさらだボール子育て情報

「価値意識は体験から」
平成28年9月28日号
板橋富士見幼稚園



これ、私の宝物

幼児はいつも自分だけの世界を持っています。

私たち大人の社会では、生活や学びに対する価値【有価性】によって、財産にしたり、希少性を感じたりしながら宝物として蓄えていきます。子ども達は、まだ社会の知識の狭い中で、単なる好奇心や興味関心などによって、初めて出会うモノや、キラキラと輝くモノ、大きいモノ、最も小さいモノなどを宝物とする傾向があります。

宝物との出会いは、子ども達にとって感激や感動を与え夢を抱かせます。この経験が、社会生活の価値を学ばせていく源泉となります。

自然な遊びの中で出会うモノの発見は、大人がダイヤモンドと出会うほどの感動の瞬間なのです。

幼稚園の子ども達の引き出しを開けてみると、こだわりの宝物がたくさん詰まっています。

大人から見ればたわいもなく価値のないモノであっても、その子にとっては自分だけの貴重品であったりします。



昨年の2月の厳寒期のある日、顔を真っ赤にしたAちゃんは滑り台の下で、私に「園長先生、見て」とポケットの中からあるモノを握りしめ、目を輝かしておもむろに見せてくれました。何だと思いませんか。「氷」です。何日も何日も前から幼稚園の帰りに、庭の片隅に水を置き氷ができる日に期待して、作っていた氷がやっと出来たのです。かわいいですね。私は思わず「Aちゃん解けちゃうよ」と言うと、ニッコリ笑いながら、ポケットの中にしまっていました。

Aちゃんが待ちに待ってやっとできた氷の固まりは、冷蔵庫の中の氷とちがいで、大きな価値を生みだした宝物にしたのです。やがて、氷はズボンの間からしみ出し、解けてしまいました。

Aちゃんの心の中には、「何日もの間期待を膨らませ、いつ氷が出来るのかを待ち続けた時間と期待」「氷と出会う発見の喜び」「独り占めした喜び」など、心高める出会いがたくさんありました。

そしてこのひと時の出来事が、その子にとっての価値を生み出していきます。

そして、たくさんの体験や経験を積み上げて、たわいもないことと希少価値のあることをしっかりと学び続けていくのです。

子ども達は日々の遊びの中で、不思議と出会い、発見と出会い、そして考え創り出した出会いの中で、こだわりを持ちながらモノを「価値づけ」、宝物と出会っているのです。質の高い遊びこそ人の価値判断を豊に育てます。